

# なきごえ



1978

2

大阪市  
天王寺動物園協会

# 動物と私

## 動物と心のやすらぎ 大内 乗 純

私と動物の出合いは、昭和32年頃、食糧事情がよくなり、色々な動物が家庭にもちこまれ飼育される様になった頃、幼稚園を経営する私は、幼児と動物たちとはきってもきれないものと思うようになり、色々な動物を飼育する様になりました。



人間と動物が共存共栄して行く上で、数多い動物飼育の間には、動物とのほほえましい、そして笑いが止まらない様な出来事、悲しくて夢にまでみ、2・3日さみしい思いをした事柄などたくさんあり、そして今では私の仕事の上で、動物がなくてはならない役割をはたす様になっております。

愛玩用の犬、猫、美しく着飾った犬、特別の訓練を受けた動物たち、カゴの中で美しい声でさえずり、ものまね上手な鳥たち、この様な動物もすさんだ私達の心をなごやかなものにしてくれます。

それよりも、いりこんだ路地の少しの日あたりをもとめ、エサをもとめてやってきたハト、スズメたちに幼児がパンのくずをやっている、文化住宅の前の雑犬に幼児が手を出しチンチンをさせている、シッポをふっている、こんな情景は少なくなったというより、探してもみあたらないでしょう。

少なくとも、愛玩用の犬、猫、着飾った動物たち

### なきごえ2月号もくじ

動物と私 「動物と心のやすらぎ」	2
“マレーグマの赤ちゃん”	3
動物園グラフ・日記	4・5
天王寺の動物たち	6・7
マレーグマの誕生	8・9
獣医室から ⑱	10
動物園ニュース	11

は、大体飼っている方たちだけの愛犬、愛猫です。動物をもっと幼児のみじかで、語り合える友達としてあげたいと思うのです。

町に緑を、憩いの場として、多くの立派な公園が出来ており、樹木が、遊具が、それに造型(プラスチック、セメント)動物が備えられています。子どもたちは、造型動物で遊び、はなしかけ、一語にかたりあおうとします。

造型の無表情なかたまりには、語りかけても心が通じず、何の感情もおこりません。語りかけた子どもたちの寂しさも思いやられます。少なくとも公園に、小動物(兎、にわとり、他にはアヒルなど)が飼育されていたら、どんなに心のやすらぎができ、子どもたちは喜ぶでしょう。といっても、毎日の管理(清掃、エサやり)が問題で大へんな事でしょうが、これ位の事は、ぜひ実現してほしいものです。日本の子供は、すぐいたづらをする、アミをこわす、石を投げつける、管理が出来ないとよくいわれます。

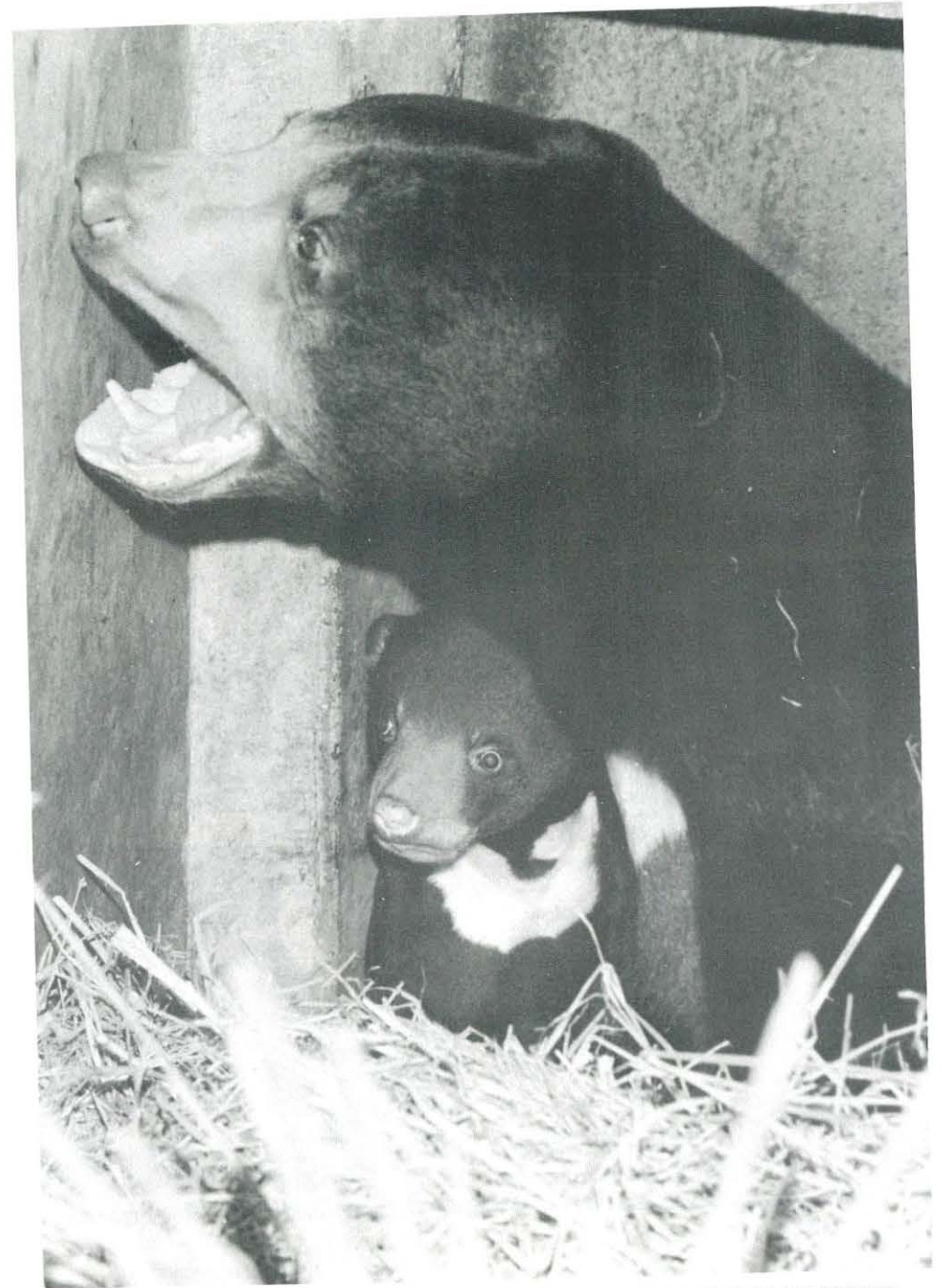
日本人は、外国を視察見学研修にいったその国のよい事、よいところをすぐ取り入れ、自分たちのものにし、そしてそれ以上に研究し、その国よりも立派なものを作り上げる勤勉な国民なのです。経済黒字大国も大切な事でしょうが、しかし、心の世界に於いても外国をしのぐものを、特に子供にうえつけるためにも、おおらかな先進国としての子供を育てるためにも、公園などに小動物を飼っていただいたらと思います。無理な事でしょうか!

(めぐみ幼稚園々長)

### 表紙の写真説明

#### “ハワイガン”

ハワイ諸島の特産種であるハワイガンは、開発などの影響を受けて一時30羽ほどに減少しましたが、その後飼育繁殖に成功し、どうにか絶滅の危機を脱出しました。(撮影：宮下 実)



### “マレーグマの赤ちゃん”

昨年11月9日、マレーグマに待望の赤ちゃんが生まれました。ドングリ眼の愛らしいこの赤ちゃんは当園では初めての、日本では4頭目の赤ちゃんです。

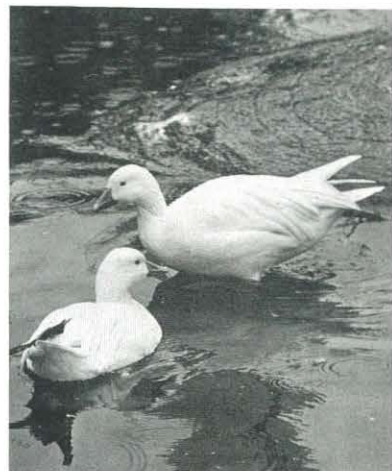
(生後70日目 撮影：野口 秀高)

# 動物園グラフ

## “水鳥の季節”

暖冬と言われた今年の冬も、いよいよ冬らしく厳しくなってきました。今月はこの厳しい冬をものともせず元気に泳ぎまわっている当園のガンを特集してみました。

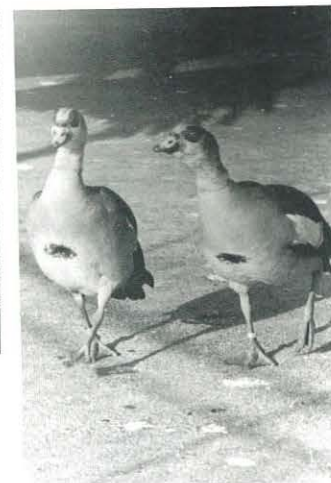
(撮影：宮下 実、長瀬健二郎)



◀コハクガン  
一層鮮やかに became ました。真冬を迎え、羽の白さが



▲インドガン  
エベレストを越えて、インドから中央アジアへ渡りをするガンです。



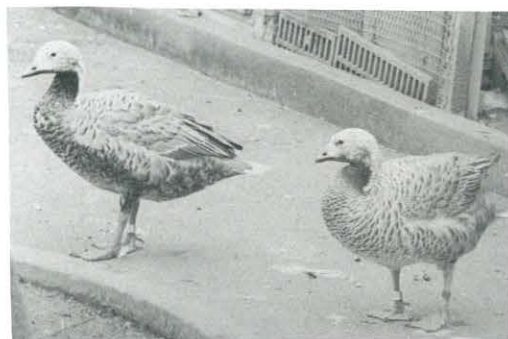
◀エジプトガン  
北アフリカから中近東に住んでいます。



▲ハワイガン  
ハワイ諸島に住むガンで激減し、国際保護動物に指定されています。



◀マゼランガン  
人にも向ってきません。とても気の強いガンです。



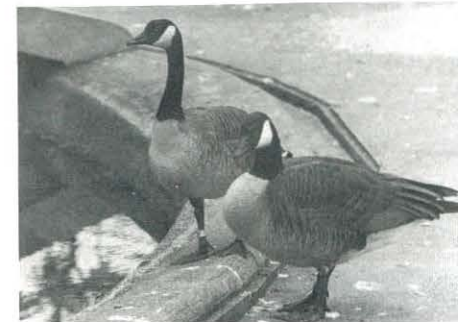
◀ミカドガン  
感じのガンです。青灰色のとても上品な



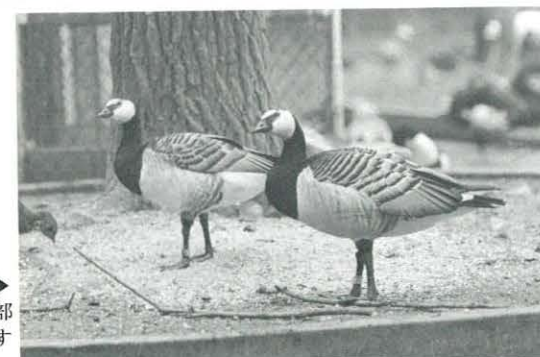
▶飼慣らしたものです。シナガチヨウは、このガンをサカツラガン



▲ロウバシガン  
オーストラリア西部・南部に住む非常に珍しいガンです。



◀カナダガン  
当園のガン類中最大です。



▶カオジロガン  
北ヨーロッパやシベリア北部に住むガンです

## 12・1月の動物園日記

- 12/14. ゴリラのメス、ラリが微熱を出してエサを食べないので薬を飲ませました。
- 17. ボランティアズの会報、「おおずぼら」の第2号が出ました。  
ゴリラのラリはまだ具合が悪いので薬を続けています。
- 18. タイワンザルのメスが心不全のため死亡しました。  
南米産のハヤブサの仲間、カラカラが保護

- されてきました。
- 19. ムラサキエボシドリ1羽が入園しました。  
バングラデシュの大使御夫妻が来園されました。
- 20. ヒツジが双子を産みましたが、惜しくも1頭は死産でした。  
ゴリラのラリがようやく治りはじめました。
- 21. ヤギの仔が1頭生まれました。メスの仔です。
- 22. イワトビペンギンがビッコをひいているので治療をはじめました。

- 12/23. オランウータンのサツキと幼稚園児8名、それにフサオマキザルのコッチが楽しいクリスマスパーティーを開きました。
- 25. オオフクロウが産卵しましたが、残念なことに割れてしまいました。
- 27. 長い間、具合が悪かったラリはすっかり治って元気になりました。
- 29. 後頭部の化膿症で獣医室に入院していたトカラヤギが治ったので退院しました。  
ジャングルキャットのオスが風邪をひいたらしいので治療をはじめました。

- 1/1. 馬のおもちゃ展が開催されました。
- 4. トラ及びライオンがそれぞれ交尾しました。
- 5. ブタのメスがビッコをひいているので治療をしました。
- 6. スジオナメラのオスが死亡しました。  
ジャングルキャットが寄生虫をわかせていたので薬を飲ませました。
- 7. ボランティアズの定例集会が開かれました。
- 8. ベンガルヤマネコも風邪をひいたようなので薬を飲ませました。

# 天王寺のどうぶつたち (18)

## アンデスコンドル

§ コンドルはハゲワシではありません!!

北園の高速道路の下を北へ歩いて行くと、大きなフライングゲージがあります。このゲージは高さ10m、幅24m、奥行13mもある大きなものですが、ここで暮しているのが今月お話しするアンデスコンドル夫婦です。

フライングゲージの前でこの鳥を観察していると横を通る子供達が、「アッ、ハゲワシや」、「ハゲワシがいるよ」と言っています。大人の人も「ハゲワシは大きいねえ」、などと言っています。しかし、アンデスコンドルはハゲワシの仲間ではありません。何々コンドルと呼ばれる鳥は6種いますが、この6種でコンドル科を作っています。いわゆるハゲワシと呼ばれる鳥達はワシタカ科に含まれる鳥で、両方ともワシタカ目という大きな分類では同じ仲間なのですが、体の構造など細かく見ると、コンドル科の



オスの頭部

鳥達とはかなり違っています。同じ<sup>もく</sup>霊長目でもヒトはヒト科に、ゴリラはオランウータン科に属しますので、コンドル類とハゲワシ類の違いはヒトとゴリラの違い位にあたるでしょう。しかし、食べる餌が似ているので同じような姿をしているのかも知れません。このフライングゲージにはもう1羽、ハゲワシの仲間に入るクロハゲワシ(チョウセンハゲワシ)がいますので、比較してみると面白いと思います。

§ 世界最大の鳥

アンデスコンドルは体重が12~15kgもあり、翼を開くと、さしわたし3.2m位もあります。これはあとでお話しするカリフォルニアコンドルと並んで鳥の中で世界最大です。体は大部分黒く、翼に白い帯があります。首にはえりまきのようにホワホワした白い綿毛がありますが、頭には羽が生えてなく、ザラザラした感じの暗赤色の皮膚が裸出しています。



メスの頭部

面白いことに、ハゲワシ類やコウノトリの仲間のハゲコウ類、そしてこのコンドルの仲間などのように、腐った肉を食べる鳥達はみな頭に羽がなく、はげています。なぜ腐肉を食べる鳥の頭がはげているのか、その理由はまだよく判っていません。

そしてオスにはトサカがあります。またオスは体が大きく、眼の色は少し濁った黄色。メスは鮮やかな赤色なので、すぐオス、メスの区別はできます。

§ 生活

コンドル科の6種のコンドル達はみなアメリカ大陸特産の鳥で北アメリカのカリフォルニアから南アメリカのアルゼンチンにかけて住んでいます。このアンデスコンドルは名の通り、ベネズエラからアンデス山系の高山に住んでいます。普通3000~5000m位にいるのですが、有名な地理学者のフンボルトは6000m以上のところでこの鳥を観察しています。

ですから、日本の最高峰、富士山よりもはるかに高い所でもこの鳥は生活できるのです。エサは時々弱った動物を殺して食べるようですが、大体は死んだ動物の肉を食べています。実験的には60km離れた所に置いた肉も見つけ出す程で、絶対見つからないと思ってかくした肉でもすぐに見つけてしまうそうです。これらはすべて非常に秀れた眼によって探し出すといえます。

天王寺のアンデスコンドル夫婦は2羽でアジ10匹、クジラ肉2kg、ニワトリ肉1kg、それに鶏頭(ニワトリの頭と首)を5本食べています。

§ 誤解されたコンドル

北アメリカには昔、カリフォルニアコンドルが全土に分布していました。しかし、どんどん殺されていまでは全部合わせても40羽位にまで減ってしまいました。これは牧畜業者が、この鳥が家畜をさらうと誤解して殺したからです。しかし、カリフォルニアコンドルは生きた丈夫な動物は食べません。いや食べられないのです。

ワシやタカは生きた動物を捕えて食べます。これらの鳥は強力なクチバシを持っていますが、エサの動物を捕え、殺すのは、その強力な爪です。足で押え込み、強い爪を動物のせきずいに打ち込んで息の根を止めるのです。しかし、カリフォルニアコンドルには大きなクチバシはありますが、足は全然強くありません。それは死んだ動物、つまり動かない肉



後指が小さく、爪も鋭くないアンデスコンドルの足



魚などをガッチリつかんで離さない、オジロワシの強力な足

を食べるからです。足は食べる時、肉を押えるフォークの代りをするだけでいいのです。その証拠にワシやタカでは4本の指のうち後の指もとても強くできていますが、コンドル類の後指は小さくなり、退化する傾向さえあります。これではとても動物をさらって行ったりはできません。

カリフォルニアコンドルはこうして誤解され、殺されつづけたのです。アンデスコンドルも同様です。コンドル類は生れて5・6年もたたないと繁殖できません。そして1回に1個しか卵を産まないの、一旦少なくなるとなかなかもとの数までには戻らないのです。



足をフォークがわりにうまく使って、エサを食べます。

日本の動物園では34羽ものアンデスコンドルが飼われていますが、繁殖に成功したのは横浜、野毛山動物園と徳島動物園だけです。

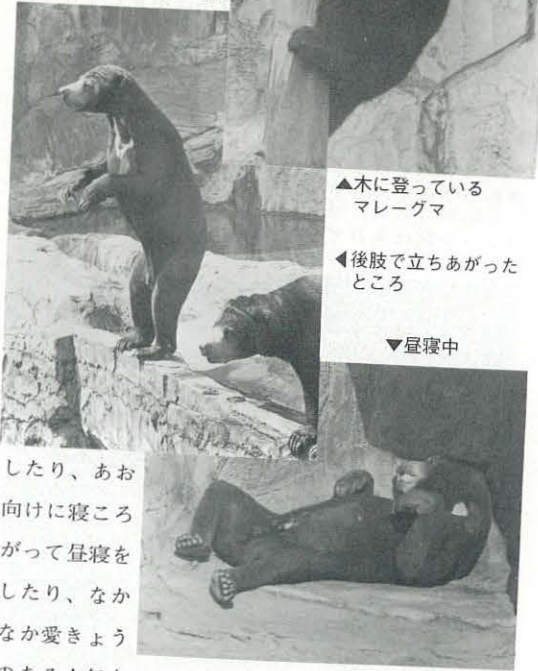
少なくなったアンデスコンドルを守るためにも、早く天王寺でも繁殖させたいものだと思います。

(飼育課: 獣医師 長瀬 健二郎)

# マレーグマの誕生

はじめに

マレーグマはビルマ、マレー半島、タイ、スマトラなどの低地の森林にすみ、クマの仲間では最も小さなクマです。全身黒色ですが、胸の所に黄白色の月の輪状の帯があり、鼻づらの部分も黄かっ色の色をしています。長くて曲がった大きな爪を持っており木登りは大変じょうずです。動物園でも時々木に登ったりしていると見かけます。餌をねだる時には後肢だけで立ちあがってさい促



▲木に登っているマレーグマ

◀後肢で立ちあがったところ

▼昼寝中

したり、あお向けに寝ころがって昼寝をしたり、なかなか愛きょうのある人気者です。

## 両親の略歴



入園まもない頃の両親

両親は昭和46年11月1日に約1才位で入園し、当時はまだ小さかったため、

ミルクを飲ませたり、園内を散歩させたりして非常に人になつききました。小さい時から一緒に育てたので夫婦仲は非常によく、赤ちゃん誕生の期待は年と共に高まりました。

## 放飼場の概略

このマレーグマのいる放飼場は南園の南端にあるクマ放飼場の一角で、北極グマ、ヒグマ、ニホンツキノワグマと並んで展示されており、昭和35年に建造されたものです。マレーグマの放飼場は50㎡、寝室は10㎡の面積があり、寝室は2つに分けられています。

## 出産

交尾は度々確認していたのですが、はっきりとした妊娠徴候はつかめませんでした。出産前日にもメスにはあまり変化はみられず、少しそわそわした感じはありましたが、あまり気にとめませんでした。



両親 手前—父親、後—母親

11月9日の朝、オス、メスを放飼場に出すため寝室に行くと、聞きなれない声がありました。ひょっとすると赤ちゃんが誕生したのかと寝室をそっとのぞくと、メスがうなりながら威かくする様子しぐさを見せ、寝室の端の方に座りこみました。両前肢で何か抱いている様子で、最初は暗くてよく分らなかったのですが、目がなれてくると、その抱いた胸の中に黒っぽいものが動いているのが分かりました。待望の赤ちゃん誕生です。母親を刺激しないように、やさしく声をかけてやると母親はおとなしくなり、しばらく観察を続けました。前日の餌はほとんど食べておらず、とりあえずミルクを500ccほど入れてやりました。母親はすぐに仔をおいて飲みに来ましたが、その間仔はしきりに母親をさがすようにクッククックと鳴き、母親はミルクを飲みおえるとすぐに仔の所に戻り、仔を抱いて座りこ

みました。仔は仔ネコ位の大きさで、薄く黒っぽい毛がはえている様でした。

## その後の経過

餌はサツマイモのふかしたもの500g、ユデ卵2ヶ、リンゴ3ヶ、パン2ヶ、バナナ1本、ハチミツ牛乳1000ccを毎日、クジラ肉、ダシジャコを1日おきに与え、2日目は少々餌を残しましたが、その後の母親の食欲は良好です。ミルクを飲みに来る以外は母親は仔を離さずにしっかり抱きしめ、時々クックという仔の鳴き声が聞こえました。

8日目頃より寒くなってきたので、敷ワラを檻ごしに入れてやると、母親はすぐ取りに寄って来て、それを丸めてじょうずに巣を作り始めました。10日ほどで簡単な巣を作り母仔共、その中で丸くなって寝てしまいました。

母親はミルクを与えるとすぐ飲みに来ていたのですが、12日目にいつものように与えても飲みに来ませんが、餌はいつも通り食べ、母親の方は大丈夫ようですが、どうも仔の方が気がかりでした。16日目に仔が母親にしがみついて元気にお乳を飲んでいるのを確認した時は、安心して思わず力がぬけたほどです。



仔をくわえて移動する母親

24日目の朝、ミルクを与えに行き寝室をのぞくと母親が仔を口にくわえてウロウロしており、一瞬びっくりしました。巣材の敷ワラが湿っているようなので少し敷ワラを入れてやると、それを集めて巣の中に敷きつめ、安心したように巣の中で仔を抱いて寝てしまいました。どうやらワラがぬれたため新しい寝どこをさがしてウロウロしていたようです。この時の仔の大きさは成猫より1まわり小さい位でした。

36日目にも同じように仔をくわえてウロウロして

いましたが、この時には仔は成猫と同じ位の大きさになっていました。

眼の開いた日は正確には分かりませんが、40日目に開眼を確認しており、ヒグマなどが約1ヶ月頃で開眼することから、30日目頃に開眼していたのかもしれない。この頃から母親が側を離れても仔は鳴かなくなり、よたよたした足取りではい回るようになり、そのかわいらしい姿は胸にジーンとくるほどです。

48日目頃から寝室の前で声をかけてやると、仔も母親の間からちらっと顔を出してこちらを見るようになりました。54日目には母親が寝ていても仔は1人で母親の上にはい上ったり、回りをはいずり回ったりして、仔グマらしいワンパクさがでてきました。

70日目をすぎた現在、成猫位の大きさに成長し、歩くのはまだ多少不安定ですが、母親から離れている時間も多くなり、母親が寝ていても遊びたいのかゴソゴソと歩き回っています。ヒグマの人工哺育例では70日目頃から離乳を開始させたという記録がありますが、このマレーグマの場合、母親が哺育しているため多少離乳は遅れるものと思います。



母親の背中にはい上がって遊ぶ仔グマ、生後70日目

マレーグマの繁殖は日本では、徳山市立動物園が一昨年初めて繁殖に成功し、一昨年、昨年と上野動物園でも例があり、それに続く4頭目の繁殖記録です。今後順調に育って、暖かくなった春に、放飼場で母仔のかわいらしい元気な姿を皆様に見てもらえる日が楽しみです。

(飼育課：柴田 総)

# 獣医室から ⑱

## 長寿動物あれこれ

今回は動物園で長年飼育されている長寿動物についてお話してみましよう。

野生動物とちがい動物園で飼育されている動物は毎日栄養価の考えられた餌を充分与えられているだけに、長生きする条件は整っているといえます。確かに野生状態では餌が充分に取れない場合もあり、又、外敵に襲われたり病気になったりする場合もあり、寿命は短いかもかもしれません。しかし動物園で飼育すれば全てが長生きするとは限らず、環境、餌などに慣じまず、比較的短命に終わる場合もあります。つまり動物園で長生きする動物の条件としては個体自身の環境、餌への適応性が必要であり、そのためには環境の整備、飼育技術の向上、餌の開発などが飼育条件として考えられます。もちろんその動物自身が健康で体力的にも恵まれているということはいまでもなく、又、病気になった時の適確な治療技術も必要です。

さて、今日本で一番長生きしている動物はというと、京都市動物園のオオム的一种のキバタンが最長で、52年飼育しています。オオム類の寿命は85年という記録もあり、このキバタンもまだまだ長生きして日本長寿記録を更新してくれることでしょう。

これにつぐのが当園で飼育しているエミュウで、41年5ヶ月の飼育年数があります。当園で戦前から飼育している動物はこのエミュウだけで、動物園開園63年の歴史の7割をこの鳥が占めており、戦前戦後の混乱期を生きぬいてきた重みを感じさせられます。エミュウの寿命は40年といわれており、もっともっと長生きして記録をのばしてほしいものです。ここ数年よる年なみか、冬の寒冷期には食欲不振になったり、元気をなくしたりで心配させられます。特に5年ほど前に右眼が白内障になり視力がほとんどなくなっているところに、昨年12月には左眼の視力も衰えたらしく、何かにつかって左眼の角膜も傷がつき手当てをして傷は治ったものの、視力は回復しませんでした。時に壁や木につかったりしますが、長年の感をかかしてか、わりとうまく障害物をよけます。しかし餌を食べるのが不自由なため、

担当者が1日2回、口の中に餌をダンゴ状に丸めて与えています。この冬も寝室の床にパネルヒーターを敷いたり餌に栄養剤を混ぜたりしており、今のところ健康状態は良好です。



当園の長寿No.2はタンチョウのオスでエミュウに餌を与えているところですが、鶴は千年亀は万年といわれるように長生きの動物の代表みたいに思われがちですが、実際は50～60年位と思われます。このタンチョウは当園ですでに29年飼育しており、ここ2・3年、羽の抜けるのがひどく、一時期、裸同然になるほど羽が抜けます。原因としては老齢化によるホルモン分泌不足を考えているのですが、このタンチョウ、外見は老化したように見えてもまだまだ元気です。特に4年前に中国の北京動物園からお嫁入りしたメスのタンチョウとの間には、昨年、一昨年とヒナが誕生しており、当分タンチョウの繁殖が期待できまそうです。

下の表に当園の長年飼育動物ベスト10をのせてましました。ぼちぼち老化現象のできたものもありますが、みんなまだまだ元気一杯です。今後共に健康で1日でも長生きしてほしいものです。

(飼育課：宮下 実)

長年飼育動物ベスト10  
(昭和53年2月1日)

1	エミュウ	オス	41年5ヶ月
2	タンチョウ	オス	28年11ヶ月
3	インドゾウ	メス	27年9ヶ月
4	チンパンジー	メス	26年8ヶ月
5	インドゾウ	メス	〃
6	カバ	メス	25年4ヶ月
7	コンドル	オス	20年4ヶ月
8	〃	メス	〃
9	カラカラ		20年3ヶ月
10	キリン	オス	18年8ヶ月

# 夢が広がるショッピング... 近鉄がお届けします



## 近鉄百貨店

### 遊園施設委託経営・製作・販売



## 久竹娛樂株式会社

本社工場 大阪市西区南堀江通3-40  
電話 大阪(06)541-3112・3938 番

「なきごえ」愛読の皆さんへおすすめ

くわしくは天王寺動物園協会 (771-0201)

「なきごえ」購読者係へ

なきごえ購読会員申込書

貴協会の「なきごえ」購読いたしたく会費1,200円を添えて申込をいたします。

昭和 年 月 日

フリガナ  
氏名

◎ 生年月日

住所

TEL ( )

切取線

☆この3冊の本は、北園の天王寺動物園協会でお求めになれます。



○でんのうじどうぶつえん

¥ 200.-

○鳥の飼い方

¥ 400.-

○犬とペットの飼い方

¥ 400.-

— お問い合わせは —

大阪市天王寺動物園協会 (☎ 771-0201) まで

動物園ニュース

12月27日、アオカケイ3羽(オス1、メス2)の

寄贈がありました。当園にはチャイロカケイしかおらず、これで2

種類のカケイがそろったわけです。(ムラサキエボシドリは北園小鳥舎、アオカケイは北園キジ舎で展示中です。)

☆ペンギンの繁殖

1月25日、ケープペンギンが1羽ふ化しているのが確認されました。これはトンネルの奥で外からは見えないため、産卵が分かりませんでした。ヒナの鳴き声を聞き、中をのぞいてヒナの誕生を確認しました。昨年3月にも1羽誕生しており、当園では

2羽目の繁殖です。又、トンネルの後ではイワトビペンギンが産



卵し、抱卵しています。ここ2年ほど毎年産卵していますが、ふ化しておらず、今年こそはヒナの誕生を期待したいものです。

昭和53年1月1日現在収容動物数

哺乳類	115種	440点
鳥類	200種	709点
ハ虫類	40種	95点
合計	355種	1244点

▷休園日のお知らせ◁

毎月第3月曜日は休園日です。5月までの休園日は下記の通りです。  
2月20日、3月20日、4月17日、5月15日。  
開園時間は9時半から4時半までで、4時に切符売止めになります。(但し、3月1日からは4時半に切符売止め5時閉園となります)

☆アカカンガルーの赤ちゃん誕生

昨年9月頃よりアカカンガルーの袋が少しづつ大きくなって赤ちゃんが入っているのを確認していましたが、年がかわった1月早々、袋から顔を出したり袋から外へ出たりするのが見られるようになりました。昨年2頭誕生しており繁殖も順調です。



☆ワシミミズクの産卵

1月11日、ワシミミズクが産卵しました。これは当園では初めてのことで、その後の抱卵も順調です。



このワシミミズクは昭和50年10月に韓国の昌慶苑動物園との動物

交換で贈られたものです。前日の10日にはオオフクロウが産卵したのですが惜しくも破卵してしまいました。

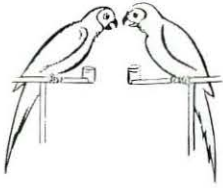
☆新着動物

12月18日、ムラサキエボシドリが1羽入園しました。この鳥は



アフリカに分布する色彩豊かな鳥で、当園にはこれで4種類のエボシドリがそろいました。

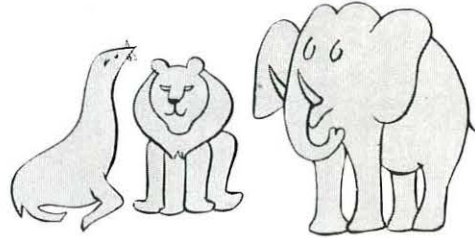
なきごえ 昭和53年2月15日発行(毎月1回15日発行) 第14巻第2号(通巻150号)  
 〒543 大阪市天王寺区玉水町2  
 編集/大阪市天王寺動物園 電話 大阪 (06)771-0201  
 発行人/大阪市天王寺動物園協会 和田辰巳 振替口座 大阪 37823  
 印刷所/株式会社 松村善進堂 定価100円(送料共) 1年継続(12部)1,100円(送料共)



## 鳥獣輸入

全国動物園水族館御用達

- ・医学実験用動物
- ・愛玩犬、猫直輸入
- ・宣伝用、テレビ用、貸動物
- ・教材用鳥獣剥製販売
- ・原色世界雑類図鑑(34種1枚もの)要郵便券150円・鳥獣価格表100円



## 有限会社 吉川商会

本社 神戸市生田区中山手通三丁目二八番地 電話(078)221-8195・221-1517  
 飼育場 神戸市葦合区神仙寺通三丁目一番地 電話(078)241-3494



自然の  
おいしさ

全糖

- 合成甘味料・合成保存料・合成糊料・合成着色料はいっさい含まれていません。



# 雪印ヨーグル

各130cc.=90円

パイン・オレンジ・ストロベリー・フルーツカクテル

編集委員 〈小谷 潔・林 邦彦・大野 尊信・米田 敏光・樽本 勲・中川 道朗・高橋 真三〉  
 石島 宏胤・野口 秀高・宮下 実・橋本 一郎・長瀬健二郎・三浦 正明・葭谷 文彦